

エゾシカ個体数調整時に発生したヒグマによる負傷事故について

1. 事故概要

発生日時 : 2023 年 6 月 28 日 16:40 頃 (曇り)

発生場所 : 知床岬羅臼側台地上

被害者 : 作業員 1 名 (40 代男性、斜里町在住)

発生状況 :

- ・環境省発注業務 (※) によるエゾシカの捕獲作業のため、作業員が草原の林縁部にさしかかったところ、距離約 12m の位置からオス成獣サイズ (推定 150kg 以上) のヒグマ 1 頭が出現し、突進を受ける。
- ・作業員はクマ撃退スプレーに手をかけるものの間に合わず、ヒグマの右手が作業員の左頬及び左腕に接触し転倒。
- ・ヒグマは一旦後退して草藪内に見えなくなるものの、直後に再び出現し突進してきたため、作業員はクマ撃退スプレーを構え、約 2m の距離でヒグマの顔面に向けてスプレーを噴射、ヒグマは後退して姿が見えなくなる。
- ・負傷した作業員は約 150m 離れた場所に停めてあった電動バイクまで徒歩で移動した後、啓吉湾付近まで移動。傷の応急処置を実施するとともに、携帯電話にて事業本部 (知床財団) へ状況報告。
- ・同日中に船舶でウトロ港まで戻り、斜里町内の医療機関にて治療を受け、帰宅。

当日の安全対策 :

- ・環境省による「捕獲事業計画」のほか、請負者による「鳥獣等捕獲等事業の実施に係る安全管理規程」に基づき安全管理。特に現地作業時には以下の対策を実施。
 - ＜捕獲作業前＞ 作業員間で打合せを行い、作業手順の確認や安全確保に係る必要な情報を共有
 - ＜捕獲作業時＞ ヘルメットの装着、クマ撃退スプレー及び無線機を常時携帯。忍び猟中であり、エゾシカに気づかれないようにクマ鈴は携帯せず

【※】エゾシカ捕獲業務について

業務名 : 「令和 5 年度知床国立公園(非積雪期)エゾシカ個体数調整実施業務」

発注者 : 環境省

請負者 : 公益財団法人知床財団

捕獲作業の概要 :

- ・知床世界遺産地域科学委員会エゾシカWGでの議論を踏まえ、巻狩り・待ち伏せ式狙撃・忍び猟 (音や気配を消してエゾシカを探索し捕獲する猟法) といった様々な猟法を用いて実施。
- ・令和 5 年度は 5 月～7 月に計 30 日以上の実施を計画 (事故後、中断)
- ・毎回のエゾシカ捕獲作業員は 3～9 名、作業は日の出から日没まで。

2. 現場検証の結果

7月20日に実施した現場検証の結果は以下のとおり。

①ヒグマ餌場への意図しない接近

- ・事故地点から約18m 斜面下にエゾヤマザクラを確認（右写真）。
- ・樹下には枯葉が付いた状態の折れた枝が堆積し、樹上には複数の折れた枝やサクラの実を採食していた痕跡を確認。事故当時、ヒグマはサクラを採食していた可能性が極めて高い。
- ・佐藤座長からは、「今回の事例は餌に執着したヒグマが接近者に対して排除的な行動をとった可能性がある。」とのコメントをいただいた。



②至近距離での遭遇

- ・事故地点である林縁部は腰丈ほどの草本が優占する環境であった（下写真）。
- ・当日の事前ミーティングでは、見通しの悪い場所では音出しを徹底するよう打合せを行っていたが、作業員は適度に見通しが効く環境と判断し、音出しは行わず忍び猟を継続し、ヒグマとの遭遇に至った。
- ・当時、加害個体は相当慌てていたものと推測され、至近距離での突発的な遭遇に驚いたヒグマが自己防衛のために攻撃を行った可能性が高い。



3. 今後の予定

- ・今後、エゾシカ WG において、岬での捕獲の進め方や安全管理等を改めてご議論いただき、具体的な安全管理策等を整理する予定。

<事故発生位置図>

